

【別紙－１】 概要文

開発建設部(建設系)技術力向上、業務効率化のための取り組み

技術管理課 ◎与那覇 忍
○三田美 修作

1. 目 的

開発建設部においては、行政改革の流れ等もふまえ、現有体制による右肩上がりの事業執行に対応すべく、多様化、複雑化する各種技術関係業務に関し多様なアウトソーシングを実施してきたところである。しかしながら、社会情勢等の変化に伴い、公共事業の縮減や組織体制の大幅な見直しが現実のものとなってきており、また、アウトソーシングの拡充等により、技術職員の技術力の低下も懸念される状況にある。これらの状況に鑑み、今後の様々な体制変化にも対応可能な職員の技術力の確保と必要な能力の取得・育成に向け、戦略的に取り組んでいくことを目的に「開発建設部（建設系）技術マネジメント向上行動計画（案）」を平成２２年度に作成した。本稿は同行動計画の内容と平成２２年度の実施状況について報告するものである。

2. 内 容

本行動計画における基本的な取組みとしては、以下の二つのプロジェクトを構築し進めるものとし、その中で GKP については、本局で一元的に（OffJT）に取り組むよりも、組織事情や業務の実情等を勘案し、本局及び各事務所ごとに職場内訓練（OJT）として各部署の計画に基づき取り組むことが、効果的で継続的なものとなることから、各部署ごとに計画するものとした。尚、本局においては、部内共通の横断的テーマや匿名的なテーマに取り組むこととしている。また、SSP については、本局において平成２０年度より実施中の「技術士取得支援の会」による活動を継続拡充する他、各部署毎に必要な資格等を検討し、対応していくものとした。

- ・技術力向上プロジェクト（GKP）

主任監督員養成講座、愉武多句会議、ダム管理勉強会、橋梁保全チーム、TEC-FORCE 研修

- ・資格支援プロジェクト（SSP）

技術士取得支援チーム、ダム管理技師等取得支援チーム、

3. 結 論

今回、「開発建設部（建設系）技術マネジメント向上行動計画（案）」を作成し、平成２２年４月から取り組んできたものであるが、全体として GKP についての取組みは見られるものの SSP については実施件数が少ない状況にある。これは、本計画が初年度ということもあり、試行錯誤しながらの対応であったため、やむをえないところもあるが、本年度からはその改善を図り、SSP についての取組みを強化していく必要がある。重要なことは、今後種々の施策を積み重ねて、無理のない範囲で継続していけるシステムを構築することにある。そのためには毎年度、気持ちを新たに、職員の技術力向上という命題に多少なりとも寄与する方策を各課、各事務所で実践していくことが重要である。

4. 今後の課題

今後の課題は以下の通りである。これらの課題を解決することでより充実した取組みとなることが期待できる。

- ・適宜アンケートなどの効果測定によりプログラム評価を行い改善を図る。
- ・業務多忙の中でプログラム参加を促すために何らかのインセンティブが必要。